

（仮称）屋代スマートインターチェンジ 周辺地区のまちづくりについて



R8.5

公民共創推進室

目次

- 1 (仮称) 屋代スマートインターチェンジ周辺地区まちづくり方針の策定について …… 1
- 2 土地利用方針と整備方針について …………… 10
- 3 事業の進捗状況と今後の予定について …………… 11

1 (仮称) 屋代スマートインターチェンジ周辺地区まちづくり方針の策定について

1-1 方針策定の背景と目的

・千曲市内で3か所目となる新たなインターチェンジ「(仮称)屋代スマートインターチェンジ(以下「屋代SIC」とする)」は、R5.9国土交通省による新規事業化決定以降、千曲市・NEXCO東日本との連携により現在事業が進められており、**今年度(令和8年度)からは工事着手を予定**している。

・屋代SICからのアクセス道路として、市は都市計画道路一重山線(市道一重山2号線)の整備に着手しており、現在地盤を安定させるための大型土のう等を使ったプレロード工法(予め荷重をかける)を全線に亘り実施している。

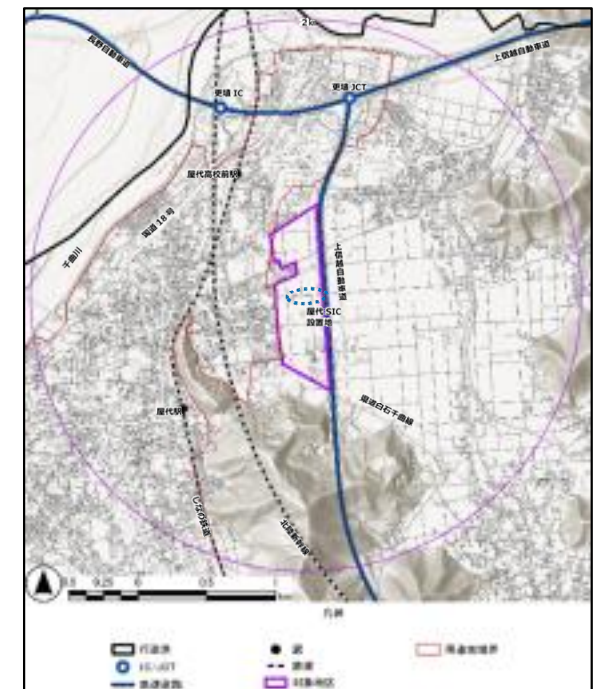
・こうした道路インフラの整備が進む当地区は、今後**開発ポテンシャルが向上**することから、**無秩序な市街化を抑制し、計画的な土地利用の誘導と道路交通網の整備**を図り、**市内全域が効果可以享受できる魅力的なまちづくり**とすることが求められている。

・そのため、現状の市の課題を基に、市民や関係機関や外部有識者、地権者や開発事業者等のステークホルダーからの意見等を踏まえ、R8.3「**(仮称)屋代スマートインターチェンジまちづくり方針**」を策定した。

都市計画道路一重山線
(事業中)



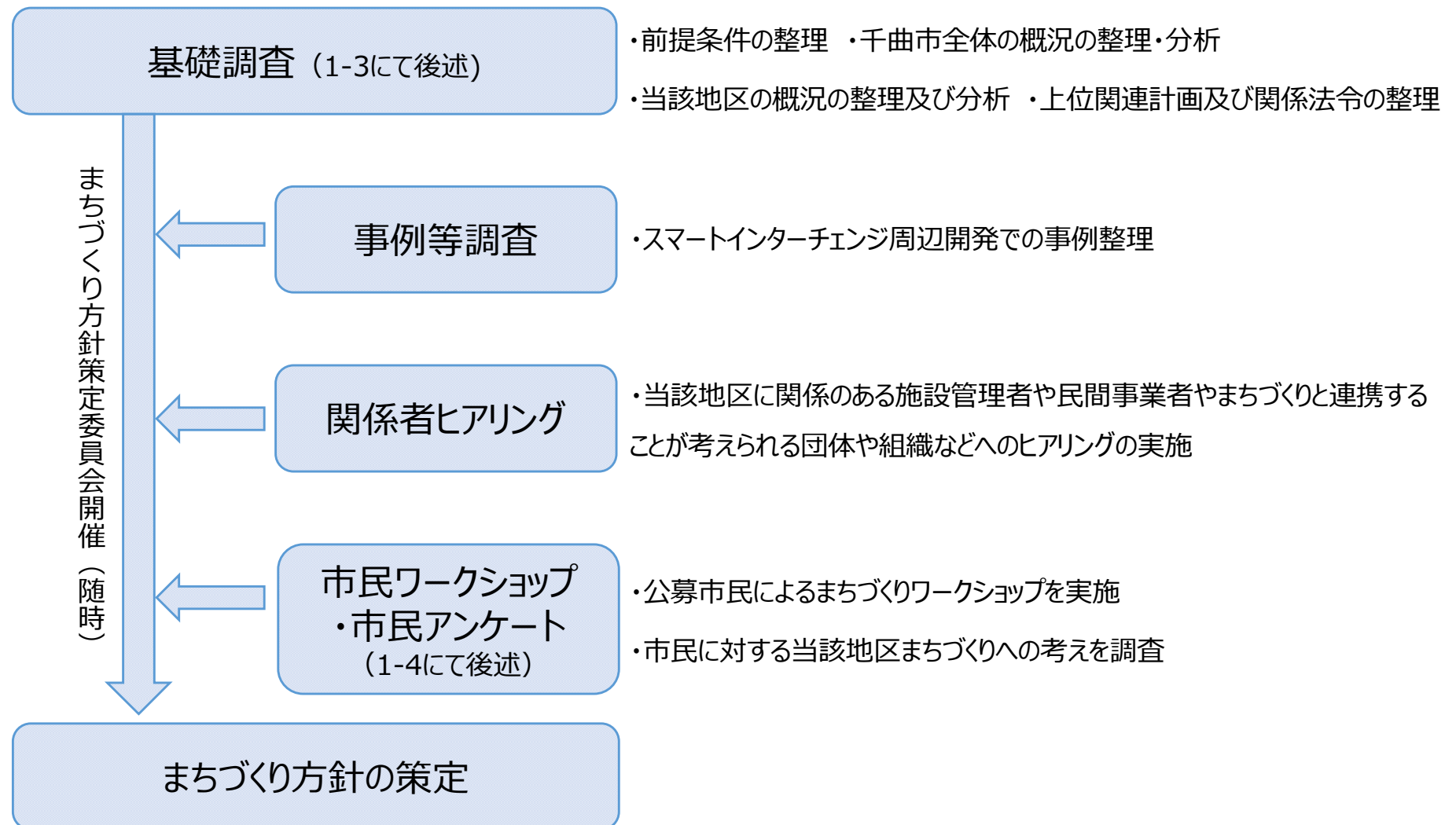
屋代SIC周辺地区 (R8.4撮影時)



屋代SIC周辺地区 箇所図

1 (仮称) 屋代スマートインターチェンジ周辺地区まちづくり方針の策定について

1-2 方針策定の流れ



1 (仮称) 屋代スマートインターチェンジ周辺地区まちづくり方針の策定について

1-3 基礎調査を通じた視点の整理

屋代SIC周辺のあり方を考える上で考慮する事項として、「機会」「脅威」「強み」「弱み」の4つの視点で整理した。(下図参照)

		機会（プラス要因）	脅威（マイナス要因）
外部環境 (取り巻く状況・時代潮流)		【屋代 SIC 設置による地域活性化のポテンシャル向上】 ・屋代 SIC の設置により高速道路アクセスが向上、産業立地の促進と物流効率化、観光入込客数の増加が期待 ・<u>SIC 周辺開発の事例では、企業立地による生産・販売額、雇用、税収等の効果が発生</u> 【地方都市における産業・観光・移住のトレンド】 ・<u>近年、生産製造拠点の国内回帰が進展し、工場立地場所としては高速 IC との近接性が重視される傾向</u> ・訪日客数は増加傾向にあり、リピーターは地方部を訪れる傾向で、長野県内の外国人延べ宿泊数も高い増加率を記録 ・長野県は、移住希望地ランキングで上位に位置	【少子高齢化の進行】 ・<u>人口は少子高齢化を背景として減少傾向が継続</u> 【都市間競争の強まり】 ・旧更埴市商圏は、長野市商圏、旧戸倉町・旧上山田町商圏は上田市商圏に組み込まれ、影響下にある状況 ・須坂市では 2025 年 10 月に長野県内最大の大規模商業施設が開業し、須坂市の吸引力向上が懸念 ・<u>千曲市は子育てしやすい環境に不満を持っている人の割合が増加（令和 6 年 5 月調査）</u> 【千曲川の氾濫リスク】 ・<u>指定緊急避難場所は、東・植生小学校区など、洪水時に使用できない場所が特に千曲川右岸の地区に多く存在</u>
		強み（プラス要因）	弱み（マイナス要因）
内部環境	市全体	【地の利・交通の要衝】 ・上信越自動車道と長野自動車道が交差する更埴 JCT や、更埴 IC・姨捨 SIC・坂城 IC があり、<u>全国各地からの自動車によるアクセス利便性</u> 【暮らしやすさ】 ・2016 年から転入数が転出数を上回る <u>社会増の状態が継続（長野市からの転入が中心）</u> ・土地が安く広いので希望の住宅が建設でき、借入額が抑えられ、子育て費用への余裕が生まれる 【多様な産業力のポテンシャル】 ・<u>製造業の就業割合が高く、増加傾向</u>であると共に、産業別の付加価値額でも他産業を卓越する水準 ・農業は果実の生産が盛んで農業産出額は増加傾向で、近年、ワイン用ぶどうの栽培面積が増加 ・千曲市の観光資源は、「千曲川河畔エリア」、「あんず・科野の里」エリア、「旧街道稲荷山」エリア、「姨捨・さらしなの里」エリア、「戸倉上山田温泉エリア」の 5 つの魅力エリアがある。	【稼ぐ力の低下】 ・地域経済を支える製造品出荷額等は 2018 年から減少傾向 ・<u>あんずの里など千曲市内の観光スポットは、コロナ禍影響からの回復の遅れ</u> ・市内で「稼ぐ力」がある「戸倉上山田温泉」でも、施設の老朽化や回遊性の面で課題 【若い世代の減少の継続】 ・<u>長野市からの転入超過数が縮小傾向にあり、社会増の増加幅が縮小の兆し</u> ・夫婦と子供から成る世帯は 2005 年から減少傾向 ・20 歳前後の若年層が転出超過 ・20 代の有配偶率が低く、出生数が少ない
	屋代 SIC 周辺地区	【歴史・緑・農業体験が融合した魅力】 ・科野の里歴史公園、森將軍塚古墳や長野県立歴史館は、<u>歴史的価値や歴史教育・地域史の学びと、自然景観・自然散策の楽しさを兼ね備えた、家族でも楽しめる魅力的なスポット</u> ・サンパワーふれあい公園は、特に子ども連れのファミリーや親子に人気のスポット ・対象地区には「あんずの里アグリパーク」や「あんずの里物産館」が立地 【学校教育施設の立地による若い世代の存在】 ・屋代高校、屋代南高校が対象地区の近隣に立地しているほか、<u>清泉大学農学部（仮称）が R9.4 開設予定であり、若年層の人口確保や市の活性化が期待</u> 【災害リスク】 ・屋代 SIC 周辺地区の計画降雨規模の浸水深は、<u>更埴 IC 周辺の浸水深と比べて小さく、浸水リスクがより低い</u>	【交通環境】 ・県道白石千曲線は、ピーク時の旅行速度が 20 km/時未満（令和 3 年） ・交通量調査（令和 7 年）では <u>通勤・通学のピーク時に横町交差点から東方向に渋滞長を観測</u>（同様の渋滞は平日 15 時台、16 時台でも発生） ・対象地区周辺のバス路線は 5 回未満/日

1 (仮称) 屋代スマートインターチェンジ周辺地区まちづくり方針の策定について

1-4 市民ワークショップ・市民アンケートの実施

【市民ワークショップ】

・屋代SIC周辺地区の整備方針の検討において、市民が求める機能・施設・空間のあり方等を把握するために実施した。
(R7.7およびR7.8の2回開催)

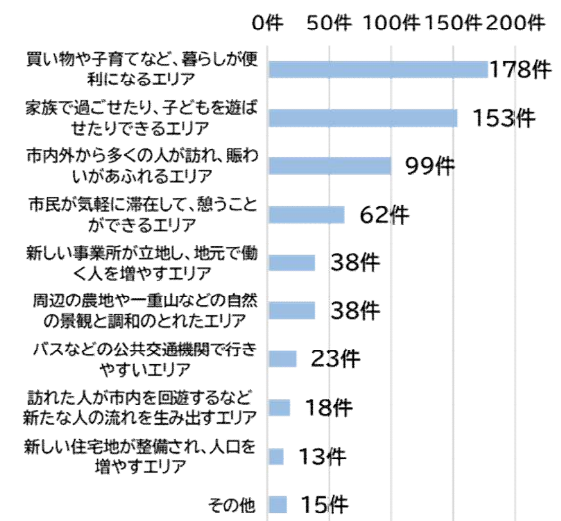


市民ワークショップ開催時の様子

【市民アンケート】

・屋代SIC周辺地区の整備方針の検討において、市民の意見を把握するため、市公式LINEを活用したアンケート調査を実施した。
(R7.6～7実施 約250名の市民からの回答を得る)

Q. (仮称)屋代SIC周辺地区が今後どのようなエリアになると良いと思いますか。
(3つまで選択) (N=251)

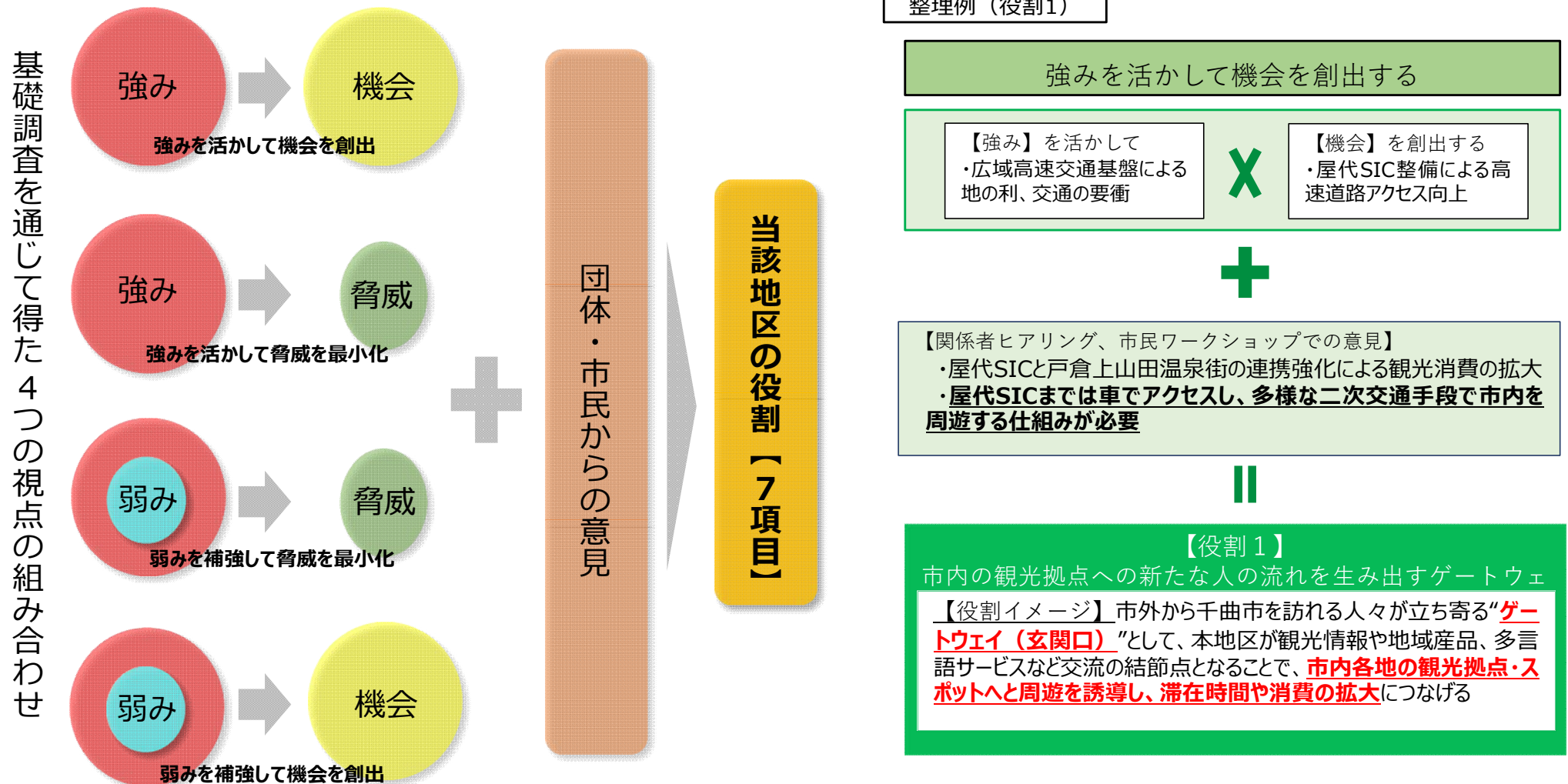


市民アンケートの結果例 (抜粋)

1 (仮称) 屋代スマートインターチェンジ周辺地区まちづくり方針の策定について

1-5 屋代SIC周辺地区の役割

これまでの基礎調査・団体・市民等の意見に基に、当該地区の役割を整理した。



1 (仮称) 屋代スマートインターチェンジ周辺地区まちづくり方針の策定について

1-5 屋代SIC周辺地区の将来像

屋代SIC周辺地区の7つの役割および、第三次千曲市総合計画の将来像である「人をてらす 人をはぐくむ 人がつながる 月の都～文化伝承創造都市・千曲～」につなげていくことを踏まえ将来像を設定した。

【千曲市第三次総合計画の将来像】

人をてらす 人をはぐくむ 人がつながる 月の都 ～文化伝承創造都市・千曲～

【役割1】

市内の観光拠点への新たな
人の流れを生み出すゲート
ウェイ

【役割2】

既存の工業団地や事業所
との連携により市内の
産業集積を強化するハブ

【役割3】

市民と来訪者がモノ・コト
の消費を楽しめる千曲市の
ショーケース空間

屋代SIC周辺地区の将来像

歴史と自然に育まれた地域文化を受け継ぎ、
さらに磨きながら、新たな価値を育て、
人と地域が共に成長するまち

人と人が出会い、地域と地域が結び合うことで、未来を担う人と文化を創ります。
そして、賑わい、学び、働き、暮らし、安心を一つにかなえます。

【役割4】

「住む・働く・楽しむ」
が融合する定住・移住の
場

【役割5】

世代と地域をつなぎ、
誰もが楽しく過ごせる
市民共有のリビング

【役割6】

歴史環境と自然環境が
融合した地域資源の
体験と発信の拠点

【役割7】

災害時の避難・救援・
物資集配送の活動拠点

2 土地利用方針および整備方針について

2-1 土地利用方針 土地利用方針とともに6つのゾーンイメージを付与した方針図を作成した。(下図参照)

【商業ゾーンのイメージ】

- ・市内の新鮮な野菜・特産品、隣接県の新鮮な水産・畜産物、市内観光と連携できる商品（スポーツ、アウトドア等）を販売するネイバーフッド型のショッピングセンター
- ・地域の特産品や食材を利用した飲食店
- ・屋外交流空間（オープンスペース、イベント広場）
- ・市内での新規開業者を育成するチャレンジショップ
- ・市内の観光拠点や名所の観光案内、情報発信機能



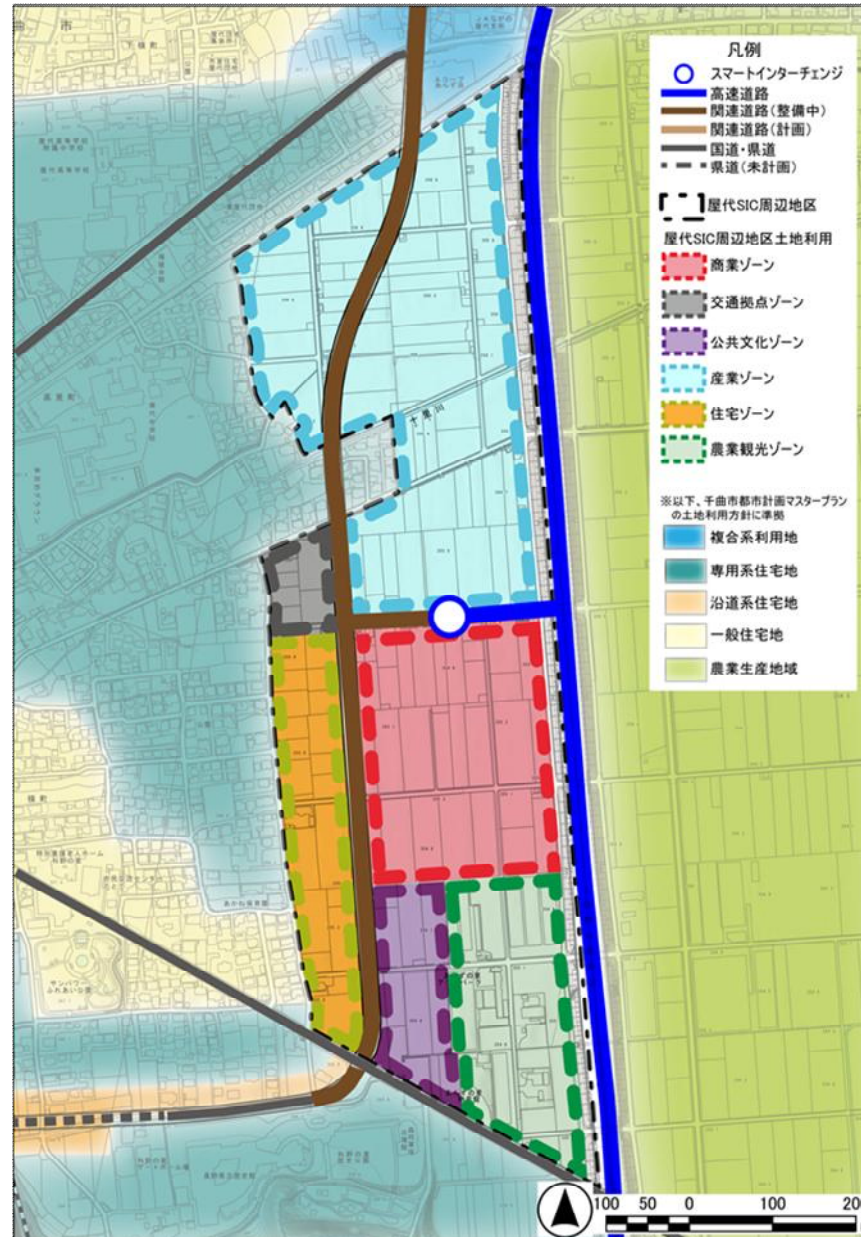
【交通拠点ゾーンのイメージ】

- ・高速バスの乗降・待合機能
- ・アクセス・乗り継ぎ機能（パーク＆ライド駐車場、送迎者の停車スペース、路線バスなど公共交通との乗継、自転車などシェアサービス、周辺施設利用者の駐車など）
- ・休憩・交流機能（トイレ・授乳室、学習・モバイルワークにも使える空間、軽食・土産物販売、イベント・展示空間など）



【住宅ゾーンのイメージ】

- ・開発エリアで働く人の職住近接ニーズに対応
- ・U/Iターンの移住・定住者が住みたくする住宅
- ・庭や菜園などゆとりがある敷地
- ・シェア菜園・広場、公園などのコモンスペース
- ・沿道は生活に必要なサービス施設を誘導（医療等）



【産業ゾーンのイメージ】

- ・先端的な製造業の生産や研究施設や物流施設など、地元若者の定住やUターンを支える雇用の場
- ・施設見学やアウトレット販売を行う食品系企業の立地
- ・地域交流スペースなどの開放施設を備えた地域共生型の企業の立地



【公共文化ゾーンのイメージ】

- ・小中高校生が勉強や会話で溜まる居心地よいスペース
- ・全天候型・通年で利用でき、子育て世代の定番のお出かけスポットとなる屋内遊び場
- ・歴史体験ゾーン（森將軍塚古墳館・県立歴史館）とも学び・体験の面で連携
- ・子育て世代の親が交流できたり、商業ゾーンでの買い物の後にゆっくりできる飲食・休憩スペース
- ・自然や木質感のある「ぬくもり」の感じられる施設



【農業観光ゾーンのイメージ】

- ・買い物のあとで、飲食や農業体験を家族で楽しむなど、地区内の回遊を誘導
- ・商業ゾーンや公共文化ゾーンと連携して農業体験や農業学習等の機会を提供
- ・屋代SIC周辺地区と森將軍塚古墳館、長野県立歴史館をつなぐ動線



2 土地利用方針および整備方針について

2-1 交通対策の方針

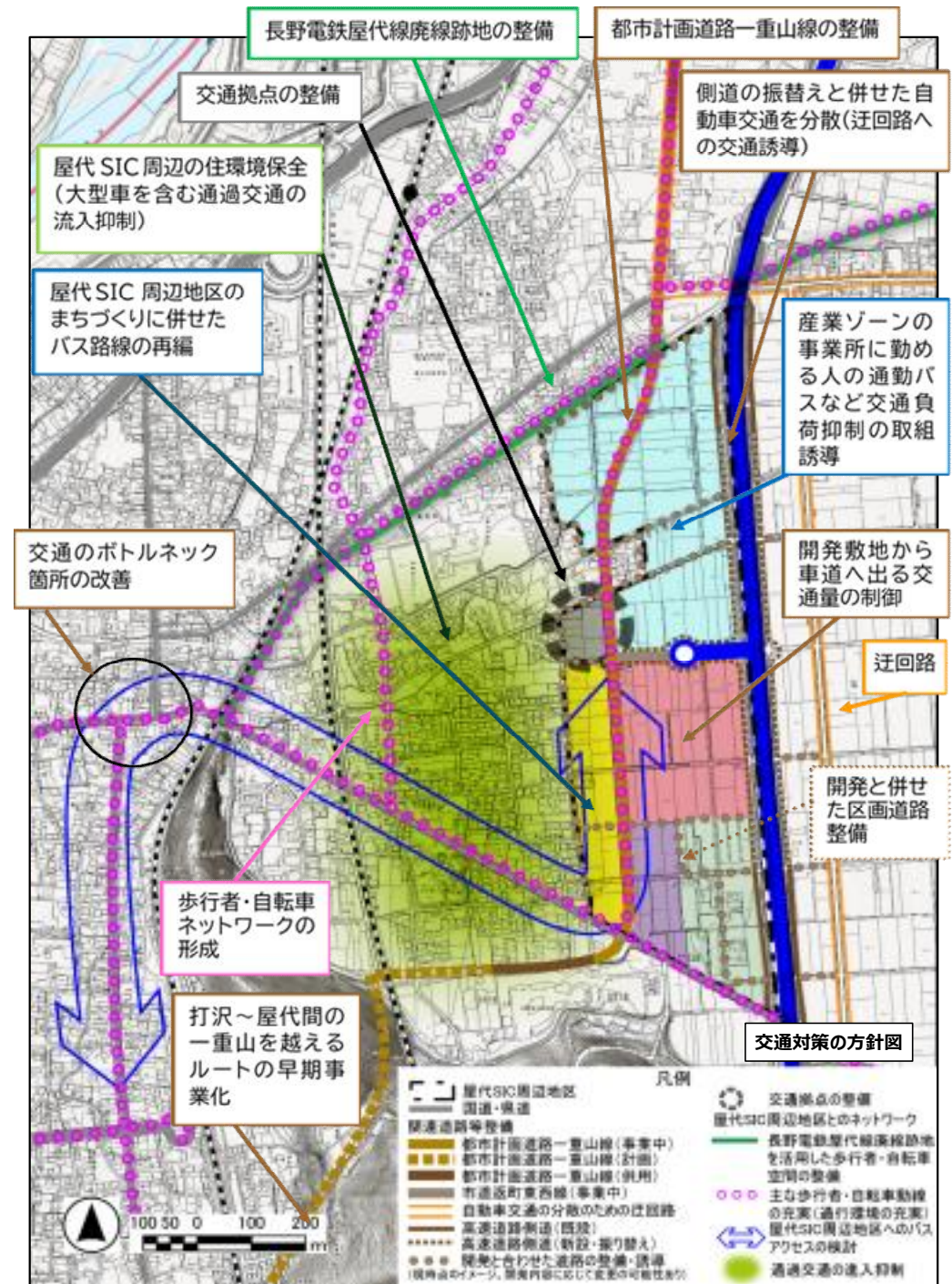
屋代SIC周辺地区では、広域的な交通結節点としての利便性を最大限に活かしつつ、**周辺道路の整備や交通流の適正化、公共交通機関との連携強化や歩行者・自転車等の利用環境の充実**を通じて、多様な移動手段に対応するとともに、脱炭素など環境負荷の抑制にも配慮した交通対策を推進していく。

(道路管理者や運行管理者など関係機関との連携により、整備・誘導を推進を図る)

屋代SIC周辺地区の
まちづくりに併せた
バス路線の再編



長野電鉄屋代線廃線跡地での
自転車・歩行者空間の整備



2 土地利用方針および整備方針について

2-2 緑と景観形成の方針

屋代SIC周辺地区では、地域のシンボリックな自然資源である一重山や屋代田んぼなどと都市機能の調和に配慮しながら、市民や来訪者が心地よさを感じられる空間の創出を基本に、緑を基調とする骨格的な景観のシンボル空間の形成やゾーンの特性を踏まえた公園・オープンスペースの配置、眺望景観の確保、建築物の形態・意匠などについて一体的な誘導を図る。

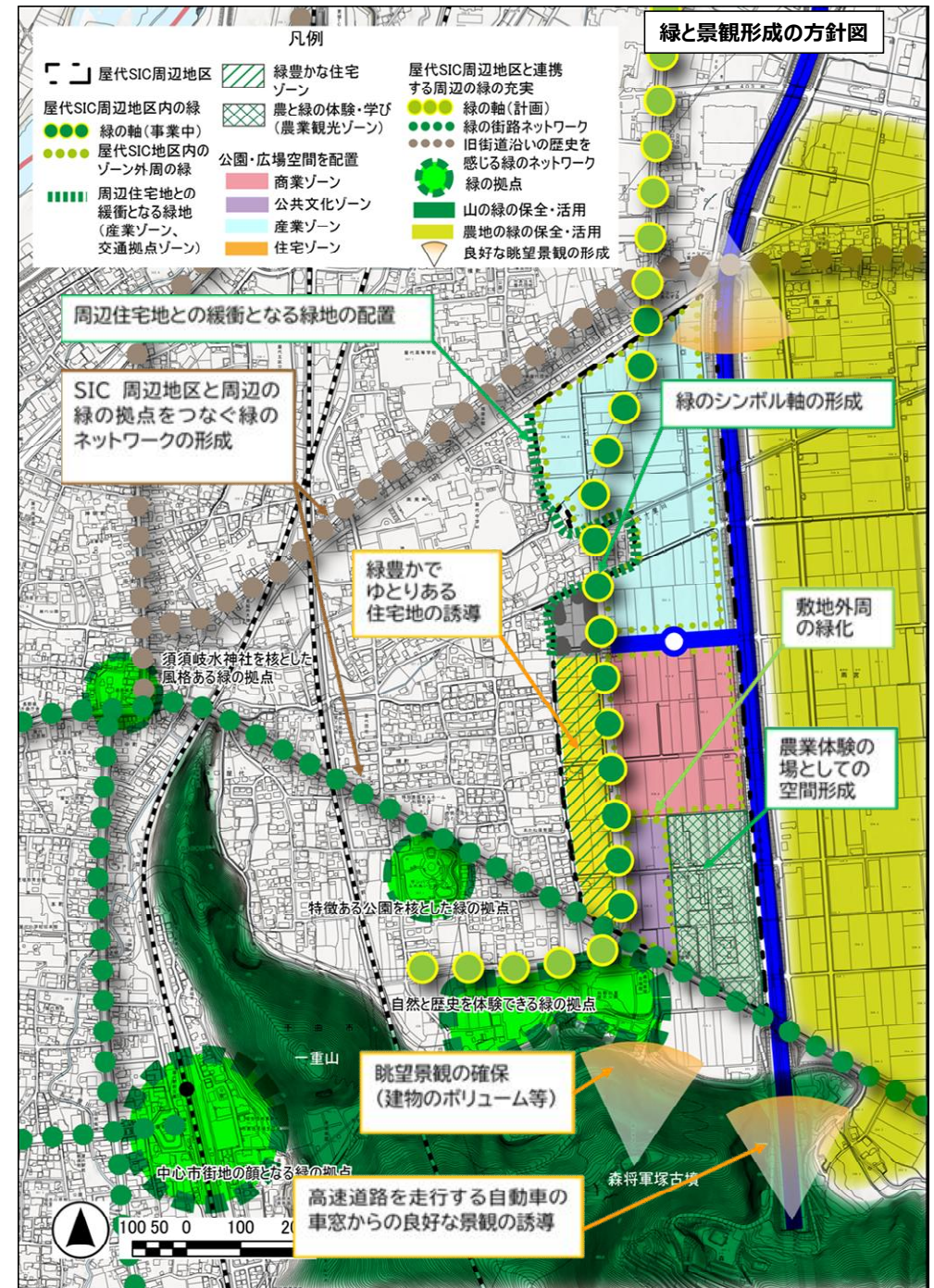
科野の里歴史公園



森將軍塚古墳からの眺望(現状)



緑のシンボル軸のイメージ



2 土地利用方針および整備方針について

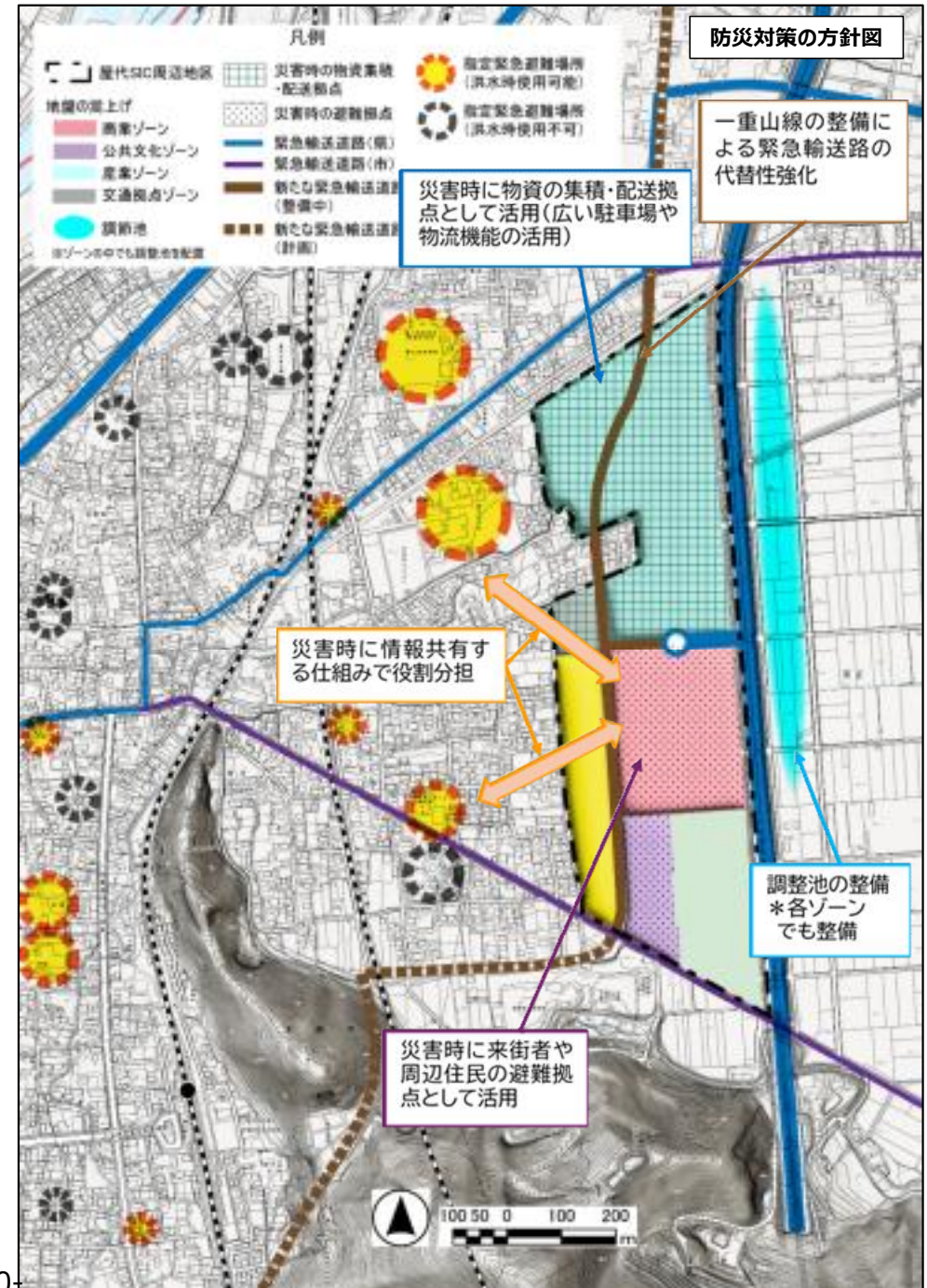
2-3 防災対策の方針

屋代SIC周辺地区では、新しいまちづくりを契機として、浸水など地域のリスクを踏まえた防災性の向上を図ることを基本に、水害リスクへの備えや広域的な交通結節点としての特性を生かした防災機能の整備、来訪者や地区外の市民も含めた新たな避難・一時滞在のための空間の提供に向け誘導していく。

広域的な防災拠点の活動イメージ(活動機関や災害車両の活動)



地域の避難者の一時滞在イメージ



3 事業の進捗状況と今後の予定について

